

### 3章：歴史教育の研究方法論

担当：星瑞希（東京大学大学院）

#### ▼著者情報

##### ○Terrie Epstein



ニューヨーク市立大学、ハンターカレッジ、大学院センター

批判理論や社会文化理論を用いて、教師と生徒の社会的アイデンティティと、国家的、国際的な文脈における歴史、リテラシー、芸術、シティズンシップの教育と学習との関係を検証している。

ニューヨーク市立大学 HP より

<https://www.gc.cuny.edu/Page-Elements/Academics-Research-Centers-Initiatives/Doctoral-Programs/Urban-Education/Faculty-Bios/Terrie-Epstein>

##### ○Cynthia S. Salinas



テキサス大学オースティン校

社会科学教育プログラム領域のメンバーであり、二言語/二文化、カルチュラルスタディの客員メンバー。初等バイリンガル教育と大きくなってから来た移民の ESL 教室環境に関する歴史に関する批判的調査や、広範なシティズンシップの理解に焦点を当てている。

テキサス大学オースティン校 HP より：[https://education.utexas.edu/faculty/cynthia\\_salinas](https://education.utexas.edu/faculty/cynthia_salinas)

#### ▼重要な用語

disciplinary approach 学問的アプローチ sociocultural approach 社会文化的アプローチ

historical consciousness 歴史意識

#### ▼議題

なぜ、日本の歴史教育研究には実証研究の蓄積が乏しいのか？かつては木全清博や日本社会科学教育研究会の「歴史意識」研究が行われていた。教育学においても「エビデンス・ベースド」な研究が求められる昨今において、実証研究をいかに進めていく（普及する）ことが可能か。また、多文化が進む昨今の日本において社会文化的アプローチに基づく調査は重要性を増すのではないか？

#### ▼概要

##### ◆本章の紹介

- ・本章では1980年代から現代に至る研究を収集、整理、レビュー
- ・本章を編成するにあたり、歴史教育研究に関する3つの概念アプローチから議論を始める。  
→認識論のカテゴリーを無視した方法で研究を編成することは、歴史教育は存在論的、認識論的、政治的、社会的、文化的な指向により決定されるという考えを無視することになる。
- ・主要なアプローチとその重要な研究をレビューした後に、その方法や頻度によってそれに続く研究(2000-2016)を整理する。

## ◆歴史教育の概念的アプローチ

### (1) 歴史教育の学問的アプローチ

・1980年代初め、英国の研究者が青少年の歴史的思考に関する幾つかの研究 (Ashby&Lee, 1987 ; Lee&Ashby, 2001 など)。

【歴史的思考概念】とは・・・

歴史文書を書くための専門的な歴史家の認識論的、方法論的なアプローチを模範とし、生徒を「能動的学問な学習者」(Seixas, 2015) と見なすことで認知的構成主義論に基づく。歴史的思考は、一次資料の解釈方法に関する理解に加えて、歴史的重要性や、原因と結果、継続と変化といった「二次的」概念や、エンパシーの構造化された歴史的説明やナラティブからなる (Ashby&Lee, 1987; Lee&Ashby, 2000 など)。

・北米の研究者も1990年代から若者の歴史的思考を調査 (Barton, 1997; Seixas, 1993etc.)

・研究の多くは、若者の歴史的な概念や方法と歴史家のそれらとを暗に比較している。

しかし、Wineburg (1991) は歴史家と中等教育学生の一次資料解釈を比較するために「熟達者-初心者」デザインを用い、Lee&Ashby (2000) は歴史的思考を概念や方法がより洗練されていく段階の発達と概念化した。

### (2) 歴史教育の社会文化的アプローチ

・Wertsch (1998, 2002) 社会文化的アプローチを採用して、歴史的、政治的、社会的な文脈が歴史ナラティブの生産と消費にいかに関与するかを実証。

(具体的には) Wertsch は歴史ナラティブを人々が社会集団への参加から獲得したり、それらに貢献したりする「文化的ツール」と定義することで、個人や国家、または民族/宗教コミュニティなどの集団が歴史ナラティブを退けたり、専有したり、抵抗したり、修正したりする目的を探究

→Wertsch のアプローチは、歴史的推論に取り組む個人の能力や、客観的で合理的な過去の解釈を生成する方法から社会的アイデンティティを生成、維持するための社会集団の歴史の使用や解釈に焦点が変化

《社会文化的アプローチを用いた研究》

Epstein (1998) 米国の若者の人種アイデンティティが米国史の解釈にいかに関与するか調査

Barton&Levstik (1998) 米国のミドルスクールの生徒が公式の国家の歴史ナラティブをどの程度専有しているかを調査

### (3) 歴史意識

・Rüsen (1987, 2004, 2005) ドイツとヨーロッパのその他の地域における歴史意識に関する調査

【歴史意識】とは・・・

過去を経験として扱い、私たちの生活が捕らわれる時間的変化の複雑な関係や、(少なくとも間接的に) 変化が向かう将来の展望が明らかになる (Rüsen, 2004, pp. 66-67)

Angvik&von Borris (1997) 欧州 32000 人の 14 歳と 15 歳を対象に歴史の定義や目的、国家の過去が現在や未来にどの程度影響を与えるかに関する質問調査

他には、Kolbl&Straub (2001/独)、Rosenzweig&Thelen (2000/米)

## ◆質的研究方法論

### (1) インタビュー

- ・2000年以前の研究の大多数は学問的アプローチを採用、2000年以降は社会文化的アプローチが主要
- ・社会文化的研究の多くは、国家の文脈と（または）社会的アイデンティティが生徒の国家史の構築にいかに関与を与えるかを調査することで、学校の文脈内で若者を対象に研究が行われてきた。

例) 対立後の北アイルランドで250名の若者の歴史的信念を調査 (Barton and McCully, 2005; etc.)

- ・生徒の民族的または地域的アイデンティティと歴史的重要性の関係に関する研究

英国 (Hawkey&Prior, 2011)、米国 (Au, 2009; Epstein, 2000; Halagao, 2004 etc.)

[他には]

- ・国家間比較研究 (Barton, 2001/米国と北アイルランド; Yeager, Foster&Greer, 2002/イングランドと米国)
- ・大人（教師または保護者）と子どもの歴史解釈の比較または結合 (Wineburg et al. 2007; Clark, 2009)

現在と過去の関連づけ(≒歴史意識)に関する研究

- ・歴史を現代の民主的シティズンシップやナショナルアイデンティティにいかに関係付けるかを調査
- ガーナ (Levstik&Gross, 2005)、またはアルゼンチン (van Alphen&Carretero, 2015)
- ・教師が修正主義者の歴史ナラティブにいかに関わるかに関する調査

例) 18人のギリシャの小学校教師が論争的な歴史問題を教えることの感情の複雑さについてどう思っているか調査 (Zambylas and Kambani (2012))

《学問的(アプローチの)研究 (考えを口に出すことのみ)》

Porat (2006), Reich (2009), Wolfe&Goldman (2005)

## (2) 観察、文書分析、テクノロジーリソースを組み合わせたインタビュー

学問的アプローチに関する研究 (インタビュー+教室の観察、授業での資料、生徒の書いたもの)

例) 教師は歴史的思考方略を (どのように) 教授実践に組み込んでいるか (Grant, 2001; Nokes, 2010 etc.)、学習者への効果 (Monte-Sano, 2011, VanSledright et al., 2000) を調査

《社会文化的アプローチに関する調査》

例) 米国の2つの調査では、インタビュー、観察、文書(展示)を分析することでミドルスクールの生徒の歴史解釈に与える修正主義の文書の影響を調査 (Levstik&Gross, 2002; Trofanenko, 2008)

他には) 社会文化的アプローチと認知的アプローチを組み合わせる研究 (Freedman, 2015; etc.) や、ディスカッションボードのようなテクノロジーを用いる研究 (Baildon&Damico, 2009; etc.) もある。

## (3) ビデオ、ならびにオンライン資料

・教員養成中の学生が過去の多様な視点に関する緊張関係をいかに調整するかに関するデジタルの歴史ナラティブを分析する研究 (Heyer and Abbott, 2011)

- ・オンラインデータを用いて生徒の歴史的エンパシーを調査 (Endacott, 2010)

## (4) 教室全体の議論

例) ・歴史教師のリテラシーテキストや実践の使用法に関する調査 (Nokes, 2010)

- ・歴史と政治の教師の政治的意見の表明が生徒の議論に与える影響に関する調査 (Niemi&Niemi, 2007)

## (5) ディスコース分析

【ディスコース分析】とは、ディスコースとそれらの多様な文脈の体系的な理論と分析である (van Dijk, 2016)。

\*本章では書かれたテキスト、学校で用いられるその他のソースとして用いる

・歴史教育には、テキストから省略されたテーマや、テキストに含まれるテーマやグループの歴史的に誤っている表現を明らかにすることで、歴史や社会科の教科書のディスコース分析を行う長い伝統があるが、近年では

教科書に加えてカリキュラム分析も行われている（本章では、それらに加えて政策文書や新聞、博物館展示などの分析も加える）。

国家の歴史ナラティブにおける**マイノリティ集団**の表現

[米国の事例]

アジア系アメリカ人 (An, 2016)、アフリカ系アメリカ人 (Aldroge, 2006 etc.)、女性 (Schmeichel, 2015etc.) など

[他には]

香港 (Kan, 2010) や台湾 (Su, 20007) の歴史教科書に見られる中国の影響、紛争後の社会の教科書 (Tosri, 2007 ボスニア etc.)

・近年では、公共政策や議論と学校で用いられる歴史ナラティブの関係を調査  
例) オーストラリアで、子どもや植民地化のイメージがオーストラリアの「歴史論争」に現れているかを調査 (Clark, 2004 ; Parks, 2007)

### (6) ケーススタディ

【ケーススタディ】とは・・・

・目的は、現実生活場面における少ない「ケース」の深い理解を提供すること。  
・ケーススタディは現代の現象の実証的探究であり、(特に現象と文脈の境界がはっきりしないときに) 現実世界の文脈内に位置付ける (Yin, 2009)

《学問的アプローチに関する研究》

歴史的思考を教えることに関する教師の信念と (または) 教授に関する調査 (Girard&Harris, 2012 etc.)、歴史的エンパシーを育成する中等学校の教師に関する研究 (Brooks, 2011) etc.

《社会文化的アプローチに関する研究》

学校の文脈とホロコーストを教える際の教授方略の関係 (Schweber, 2003, 2006, 2008)

《歴史意識に関する研究》

過去を現在と繋げる2人のミドルスクールの歴史教師と、生徒たちも同様に現在の公共善のために理解し、行動したのかを調査 (Brooks, 2014)

### (7) エスノグラフィ

例) パレスチナ人とユダヤ人の統合学校の調査 (Berkeman, 2009)、紛争後のキプロスでの調査 (Zambylas and Kambani, 2012)

ルーマニアにおいて共産主義体制後に論争を醸し出すトピックであるホロコーストを教えることのアフォーダンスと制約を調査 (Misco, 2008) etc.

### (8) アクションリサーチ

【アクションリサーチ】は大抵の場合、生徒の成果に加えて教授実践や学校規模の実践を向上させる目的で自らの教育実践を実証することに関心のある専門家や教師によって行われる。

例) VanSledright (2002)、James (2008)、Martell (2013) など

### ○混合研究法

【混合研究法】とは・・・

研究者が量的研究、質的研究の技法、方法、アプローチ、言語の概念を単一の研究に混ぜ合わせたり、組み合わせたりする調査の部類 (Johnson and Onwuegbuzie, 2004)

## 《学問的思考に関する研究》

シミュレーションがエンパシーに及ぼす影響に関する研究 (Rantala, Manninen & van den Berg, 2016) etc.

## 《社会文化的アプローチに関する研究》

「困難な歴史 (difficult history)」に関する研究

スコットランド人の生徒のホロコーストの見方 (Cowan & Maitles, 2011)、オランダ人の生徒が国家の遺産の一部としての奴隷の見方と論争 (Savenjie et al., 2014)

[他には]

歴史教育の目的に関する教師や生徒の見解に関する調査 (Haydn & Harris, 2010; Cohen, 2016 etc.)

## ◆量的研究方法論

・生徒の学問的知識や思考、態度に与える教授や講座の効果に関する

Smith and Neimi (2001) Otten, Stigler, Woodward, & Doolittle (2008) etc.

・教師や生徒の歴史的知識や信念を調査する際に学問的アプローチを採用した研究

Hicks, Doolittle, and Lee (2004) Fogo, 2014

## 《社会文化的アプローチに関する研究》

400人のオランダ人とイギリス人の高校生が歴史を学習することの目的をどのように見ているか、またそうした見方と国籍、ジェンダー、市民的地位との関係性を調査 (Grever, Haydn, and Ribbens, 2008)

## ◆方法論を改革する

・改革の提言として、アクションリサーチ、参加型アクションリサーチ、若者参加型アクションリサーチに注目

【参加型アクションリサーチ (PAR)】とは・・・

探究の型であり、研究者と参加者が共同で調査を計画、実行するだけでなく、参加者はデータを分析し、考察を生成し、プロジェクトの多くの要素、または全ての要素に参加する。

→共同研究者(参加者)は馴染みのあるルーティーンや、インタラクションの構造、権力関係を、認知的に距離を置いて見ることで、状況や方略の既定の解釈に疑問を持ったり再考したりすることが可能になる (Bergold and Thomas, 2012)

【若者参加型アクションリサーチ (YPAR)】とは・・・

若者に彼らの生活に影響を与える社会問題について調査する機会を与え、問題を是正する行動を判断させる (Cammarota and Fine, 2008)

YPARの目的は、研究を出版することではなく、変革(社会正義を促進する組織的で構造的な変化)である。

## 《歴史教育に関する YPAR》

例) Morrell and Rogers (2006)

有色人種で低収入の生徒を「批判的な大衆の歴史家」にするため、1954年のブラウン対教育委員会裁判が、生徒の生活するロサンゼルスでの教育の機会/課題に与えたインパクトを調査し、研究成果を公開し、彼が行なったオーラルヒストリーのビデオを作成。

・関連する方法論としてビジュアルやイメージに基づく教育研究 (Prosser & Burke, 2008) があり、子供たちや、研究者ではない人に、彼らの世界の理解を表出させることを可能にする。

《脱植民地化の方法論》 Smith (1999)

目的：研究における土着（indigenous）の視点を認識すること

→土着のコミュニティへの象徴的、物理的な暴力を永続化、正当化する伝統的な研究方法を脱構築する

例) Tupper and Cappelo (2008)

・他にも「脱植民地化」概念のフレームワークや方法論が開発されているが、3つの研究を紹介  
批判的人種理論に基づくディスコース分析 (Helig, Brown, and Broun, 2012)、ラテン的批判的理論に基づく教師  
の研究 (Salimas, et al. 2016) アジア的批判的理論 (AsianCrit theory) に基づくカリキュラム研究 (An, 2016)

◆これからに向けて：人々の過去に関する視点を調査すること

- ・歴史意識に関する研究は3つの伝統の中で最も明らかにされておらず、分野を拡大する余地が多分にある。
- ・加えて、国際的なネットワークは分野を多様化する効果的な手段である (AERA, EUROCLIO, HEIRNET)。